

令和8年度 学校評価(前期)分析

本校の学校評価は、松野町小・中学校共通の項目をもとに実施しています。また、松野町学校運営協議会で結果を報告する予定です。7月に「生徒」「保護者」「教職員」「地域(学校運営委員会)」に前期学校評価として、アンケートを行いました。詳細は、別紙の通りです。前期結果から本校の課題を取り上げ、後期に向けて学校として改善する内容を検討しましたので、御報告いたします。

I いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応

【生徒】	肯定率
・私は学校に楽しく来ています。	93%
・松野中は良い雰囲気です。	96%
・頑張ったことが、先生や仲間から認められる場があります。	98%
・私は中学校生活を通していろいろな面で成長することができています。	94%
・いじめや差別は、どんなときでも悪いことだと思います。	98%
【教職員】	
・教職員と生徒・保護者との信頼関係づくりに努めた。	100%
・あゆみ指導や教育相談等で生徒を理解し、一人一人の良さを認める指導に努めた。	100%
・あらゆる教育活動を通じて人権・同和問題学習(いじめを含む)等の充実を図り、人権意識の高揚に努めた。	100%
【保護者】	
・お子さんは、楽しく学校に通っている。	93%
・学校は、思いやりや人権尊重の精神を大切に育てようとしている。	98%
・学校は、いじめ・不登校等の諸問題の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。	89%

課題

- ・ 生徒や教職員の間で組織的な対応や信頼関係づくりが進む一方、保護者から見た「早期発見・早期対応」への安心感や信頼度をさらに向上させる必要がある。

課題解決に向けた方策

- ・ 生徒からの相談や小さな変化を迅速に捉え、学級担任だけでなく全教職員や関係機関・担当教員が連携して組織的に対応する。
- ・ 人権尊重と思いやりの心を育み、互いを認め合える温かい雰囲気を醸成する。また、生徒一人ひとりのニーズに寄り添った丁寧な支援や配慮を行い、安心して登校できる環境を整える。
- ・ 「全校教育相談」や定期的なアンケート、日々のあゆみ指導を充実させる。学校通信や学校ホームページを活用し、取組の様子や生徒の成長を積極的に発信する。

2 自ら学び、意欲的に学習する子供の育成

【生徒】	肯定率
・授業は分かりやすいです。	87%
・先生は、一人一人の学習のつまずきに関わってくれます。	91%
・私は、家庭での学習習慣が身に付いています。	89%
【教職員】	
・目標と指導と評価の一体化による授業の改善ができた。	100%
・宿題を工夫したり、学習の仕方を指導したりして、生徒の学習習慣が身に付くよう努めた。	100%
【保護者】	
・お子さんは、「授業が分かりやすい」と言っている。	88%
・お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。	65%

課題

- ・ 生徒自身が「学習習慣が身に付いている」と認識していても、保護者の目からはそのように見えておらず、実際の学習の質や定着度には結びついていないことがある。

課題解決に向けた方策

- ・ 生徒の学力向上に向け、教員間で学習上の困り感を共有しながら、一人一台端末の効果的な活用、プリントや板書の工夫など一人ひとりに応じた授業改善に努める。
- ・ 生徒自ら計画を立てて取り組む自主学習（「けてぶれ学習」等）の質を高め、学習の達成感を味わわせる。

3 気持ちの良い挨拶や返事ができる子供の育成

【生徒】	肯定率
・私は、地域の方に挨拶したり、大きな声で返事をしたりできています。	(94%)
【地域】	
・生徒は、地域でよくあいさつをしている。	(70%)

課題

- ・ 生徒が「できている」と思っている挨拶や返事が、地域住民に十分に届いていなかったり、実際の地域社会の場面で行動に移せていなかったりするギャップがある。

課題解決に向けた方策

- ・ 教職員自らが目を見て笑顔で挨拶し、社会人としての礼儀や立ち振る舞いの手本を示す。大人が率先して行動することで、生徒の規範意識を高める。
- ・ 生徒会による「あいさつ運動」を継続・発展させ、活動範囲を地域へも広げる。また、自身の挨拶が相手に届いているかを生徒自身が客観的に振り返る機会を設ける。
- ・ 地域の方々からいただいた温かいお褒めの言葉や、素晴らしい挨拶の実践事例を校内で紹介し、生徒の自発的な行動と自信につなげる。

4 地域に密着した教育活動とふるさとを愛する子供の育成

【生徒】		肯定率
・私は、松野が好きです。		94%
・私は、地域の行事や活動に参加しています。		83%
【教職員】		
・地域創生をテーマとした総合的な学習の時間で、生徒の考えを深める取組ができた。		91%
・生徒会活動やボランティア活動等を軸に、地域に貢献しようとする生徒の育成に努めた。		100%
【保護者】		
・学校と家庭・地域との信頼関係・連携ができています。		92%
・学校は、教育方針や日々の様子を、通信はホームページで伝えている。		87%
【地域】		
・学校と地域との信頼関係の構築ができています。		80%
・学校は、電話や来客時等の対応を適切に行っている。		100%
・学校は、ホームページ等を用いて、地域に情報を適切に発信している。		100%
・学校の体育館・運動場は地域も活用しやすい状況にある。		67%

課題

- ・ 地域全体との信頼関係をさらに深める（地域評価 80%の向上）。

課題解決のための方策

- ・ 「総合的な学習の時間」における地域でのフィールドワークや、既存の教育活動（福祉活動・起業家教育、まちおこプロジェクト等）を見直し、計画的な地域貢献プログラムを組み立てる。
- ・ 地域の教育力や学校支援ボランティア（俳句、森林・林業教室等）の協力を積極的に活用し、生徒に多様で豊かな学びの機会を提供する。また、学校行事や文化祭などの情報を地域へ周知し、地域の方々が気軽に来校・参加できる機会を増やす。
- ・ 「広報まつの」への QR コード掲載などを通じてホームページの閲覧を促し、学校の様子を広く届ける。自分たちの活動が地域に見守られているという意識を育み、ふるさとへの誇りと愛着を深めさせる。